

ITを活用した金融の高度化の推進に向けたワークショップ（第4回）

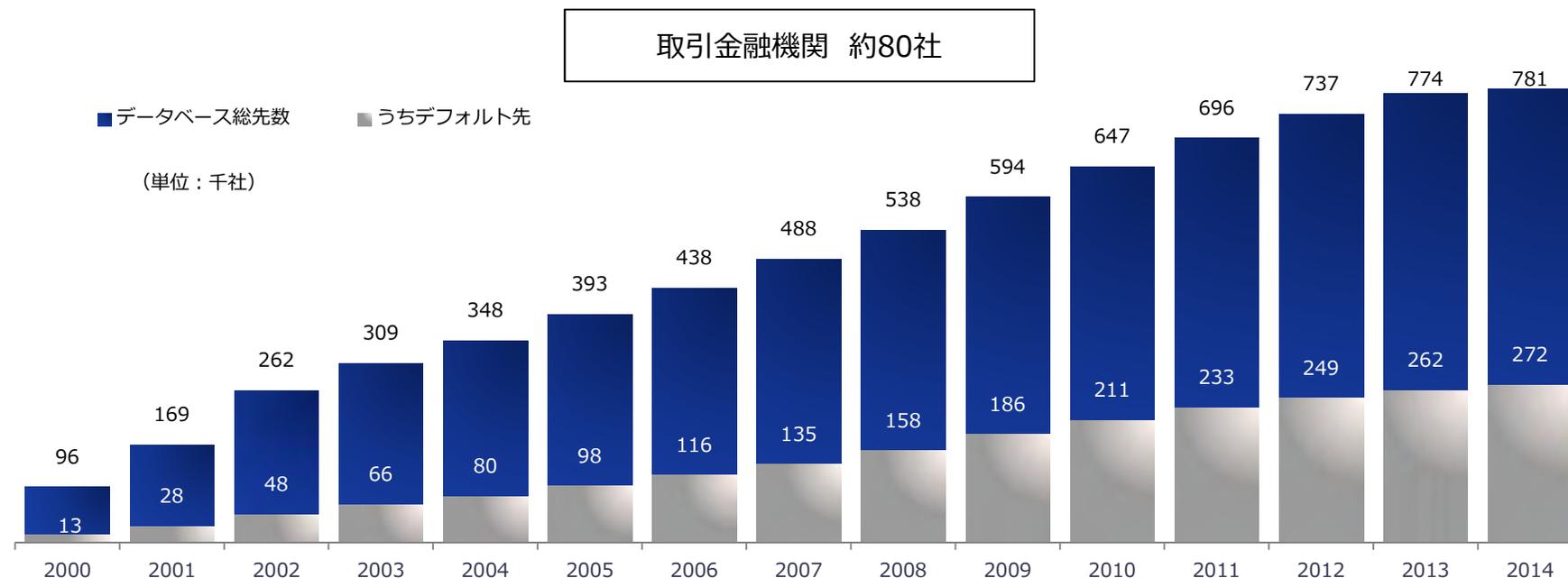
口座取引情報を動的にモニタリングする法人取引のイノベーション

2016年4月26日

 **日本リスク・データ・バンク** 株式会社
The Risk Data Bank of Japan, Limited
未来を想像し創造する「データアーティスト」

RDBの歩みとデータベース件数の推移

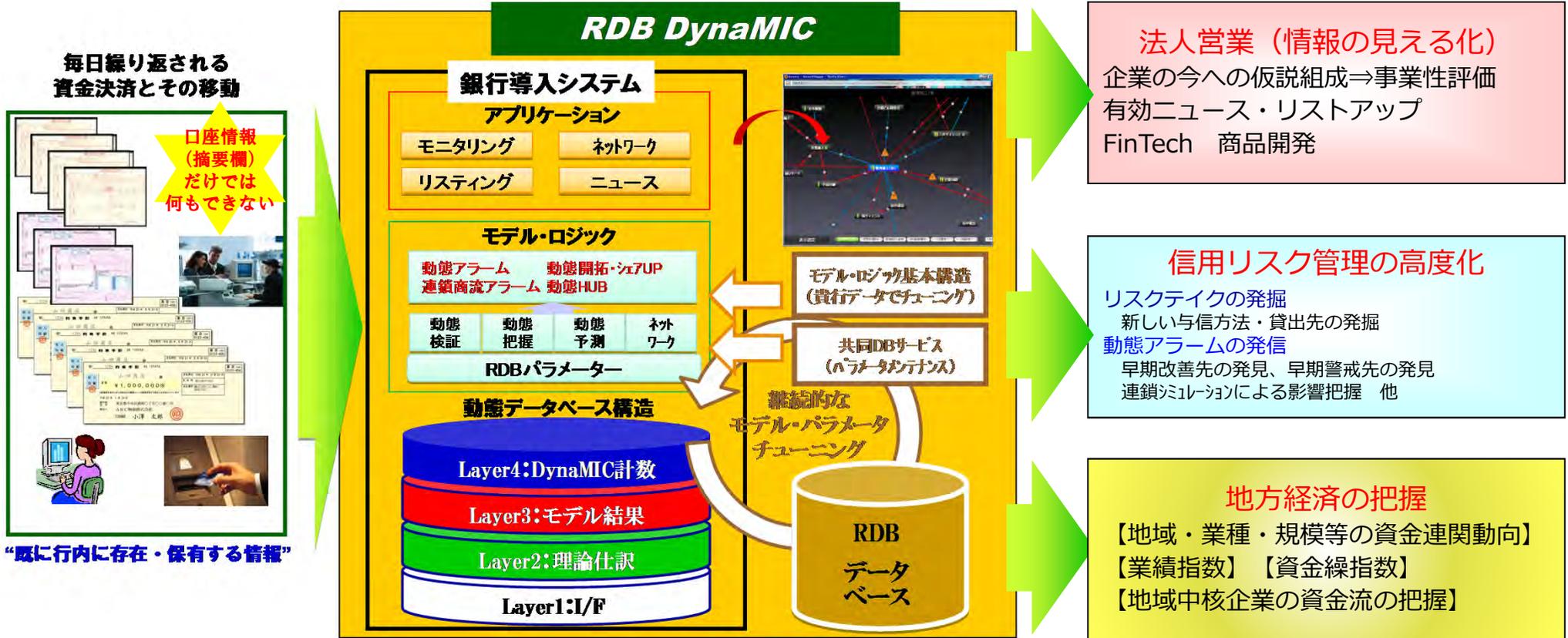
2000~2002	2003~2005	2006~2008	2009~2011	2012~
<p>2000年 RDB創業 事業法人データベースのサービス提供開始</p> <p>2001年 RDBモデルをリリース</p> <p>2002年 個人事業者データベースのサービス提供開始 個人事業者モデルをリリース</p>	<p>2003年 中小企業クレジット・モデルリリース</p> <p>2005年 日本SME格付けサービスイン</p>	<p>2006年 デフォルト債権回収データベースのサービス提供開始 会員向け情報誌「クレジット・リサーチ」創刊</p> <p>2007年 財務診断レポート（RDB企業カルテ）サービス提供開始</p> <p>2008年 RDB大企業モデルをリリース</p>	<p>2009年 RDB企業デフォルト率一般向け提供開始 RDB企業デフォルト率予測レポートサービス提供開始</p> <p>2010年 オペレーショナル・リスク・データベースサービス提供開始</p> <p>2011年 規制対応アドバイザーサービス提供開始</p>	<p>2012年 SORA (Statistical Operational Risk Analyzer)のサービス提供開始 TORA (Technical Operational Risk Assessment)のサービス提供開始</p> <p>2014年 RDB DynaMIC (動態モニタリングシステム) 提供開始 RDB C-Voice (地方自治体データベース) サービス提供開始</p>



動態モニタリングの実現

膨大な口座ログを、動態モニタリングに資するようデータを質的に変換させ、モデルとトリガーによる合目的な動態モニタリングを実現するソリューション

RDB DynaMIC



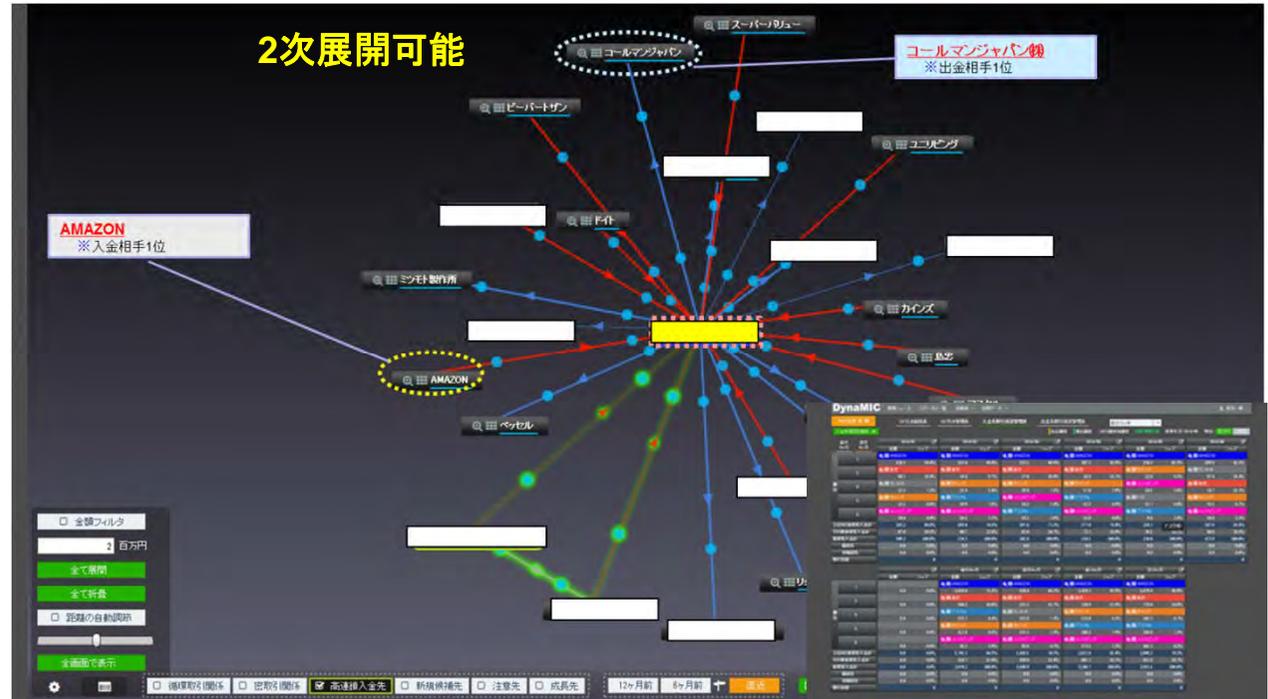
イノベーションにより実現可能となる、かつての活動の原点【動態モニタリング】 それは、
 “古くて”、でも、“新しい” 法人営業 “古くて”、でも、“新しい” 与信管理の実践

※入出金ログを“理論仕訳”した明細データを作成、様々なロジックの処理結果を格納するデータ構造を設計済(特許取得)
 ※各種モデルは複数行のデータにより構築、個別行毎の検証実施済み

取引履歴情報のモニタリング・情報の見える化

昔の金融マンなら誰でもやっていた商流把握を実現

- 企業・個人の経済活動は、最終的には資金の決済授受で完結し、その殆どが、銀行・地域金融機関口座を介して行われている。従い、『口座取引情報』の明細には、取引先企業・個人に関する“今いまの情報”が客観的な事実として詰まっている。
- それらを動態時系列にて“モニタリング”することにより、企業・個人の“今いまの経済状態”や【商流ネットワーク】という“お客様同士の今”を“仮説をもって推察”することが“不断に”実践可能となる。
- 更に、お客様の“ニュース”を日々自動組成し、現場に発信すると共に、その口座動態の裏に潜む可能性を“仮説”として現場提供し、営業力の強化、信用リスク管理の革新を招来する。



“お客様の今(経営状況)”と“お客様同士の今(商流)”を把握して、
お客様の置かれている状況への仮説を立てる
お客様の為に何を考えること

「事業性評価の第一歩」

動態モニタリングは、法人との取引継続に必要な考え方

見えない取引を見るように ⇒ メイン化【取引強化】推進
財務に頼らない与信設計 ⇒ 銀行マンの真骨頂
地域貢献 ⇒ 地域中核、地域貢献企業の発掘と融資
メインバンクの責務 ⇒ 事業性評価と企業の明日を考える

銀行員の基礎を今一度推し進めること

RDB DynaMIC 動態信用リスクモデル

対象	分類	水準	DynaMICリスクモデル デフォルト判別能力				財務モデルとの組み合わせ による良化幅			
			銀行A	銀行B	銀行C	全体	銀行A	銀行B	銀行C	全体
売上規模	～1億円		59.5	54.3	59.1	56.3	7.1	5.9	9.1	7.5
	1～3億円		62.1	58.5	50.1	57.5	4.1	4.1	5.6	4.9
	3～10億円		60.0	59.6	68.4	60.8	4.0	4.3	7.3	5.6
	10億円～		57.8	44.1	58.8	51.2	4.3	0.6	1.9	2.8
業種	建設業		59.2	65.5	59.7	62.0	5.6	6.3	10.2	7.5
	卸売業		53.9	49.3	58.4	51.0	3.8	2.2	9.1	4.0
	不動産業		78.5	63.3	51.0	64.1	8.3	8.0	-3.5	7.3
	小売飲食業		59.0	48.6	64.7	54.6	6.2	3.5	6.8	5.6
	その他サービス業		64.1	53.7	54.9	57.2	5.9	6.1	4.3	5.7
	製造業		59.3	52.6	52.5	55.0	4.2	2.7	4.2	4.2
	その他		73.8	40.5	67.8	57.3	6.5	-1.1	9.0	4.3
預金シェア	～10%		58.5	43.0	46.3	49.4	6.1	4.2	8.1	6.4
	10～50%		61.0	58.8	54.1	58.1	4.1	4.6	4.5	4.8
	50%～		66.4	61.1	56.7	60.0	6.6	5.0	3.1	5.3
貸金シェア	～10%		67.4	59.2	55.5	61.1	5.6	5.2	11.4	6.6
	10～50%		52.5	46.0	65.3	51.2	4.5	3.1	6.6	5.2
	50%～		63.3	62.0	58.1	60.8	5.6	4.2	6.4	5.4
全体		61.0	55.5	60.3	57.7	5.3	4.3	6.8	5.7	

(注) 財務モデルはRDB信用リスクモデルにて検証

【動態モニタリング】により
改善する内部格付モデルの説明力 (AR)

- DynaMICモデルは、単体でも財務と同レベルの判別力を持つ
- 現行の内部格付モデルを補完補強する手段として有効
- 企業規模によらず、効果を発揮
- 預金シェア、貸金シェアによらず、効果を発揮
- 銀行ごとの特徴に大きな相違は見られない

格付	件数		デフォルト 率(%)	DynaMICリスクモデル (10段階)リスクランク													
	全体	デフォルト		→ 高リスク													
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1格	86	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2格	248	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3格	342	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
4格	387	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5格	325	3	0.92	0.00	0.00	0.00	0.00	2.13	0.00	0.00	5.56	11.11	0.00				
6格	477	5	1.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.82	1.41	4.44	0.00	12.50				
7格	385	12	3.12	0.00	0.00	0.00	4.76	1.61	4.26	4.76	4.76	7.89	0.00				
8格	251	19	7.57	0.00	0.00	6.67	10.53	3.57	6.52	8.11	3.33	28.57	14.29				
9格	102	8	7.84	0.00	0.00	0.00	10.00	7.69	0.00	14.29	6.67	0.00	22.22				
正常先	1,865	8	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.49	0.67	0.72	3.23	1.61	5.88				
要注意先	730	39	5.34	0.00	0.00	2.70	7.04	2.94	4.90	8.08	4.60	12.33	10.71				
全体	2,603	47	1.81	0.00	0.00	0.59	1.73	1.30	2.34	3.78	3.89	7.35	8.89				

- ◆ 縦軸を内部格付 (1～6格が正常先、7～9が要注意先)、横軸を口座モニタリングモデルによる10段階評価結果 (ランク0に向けて低リスク、ランク9にむけて高リスク) として、そのマトリクスを作成したもの
- ◆ 口座モニタリングモデル評価の結果、ランク9に近づくほど、デフォルト率が高くなり、モデルの効果が確認できる
- ◆ 口座動向モニタリングすることで赤実線枠 (正常先) に該当した業績の悪化企業を早期に発見し、指導改善へと結びつけることができる
- ◆ 一方、赤点線枠に該当する企業には、過小資本等、B/Sが脆弱ながら事業性C/Fの成長・回復傾向や安定性が評価されている先が多く含まれていることが推測される
- ◆ この赤点線ゾーンや、小規模ながら商流が固い先などについては、融資開拓の可能性が残されている可能性がある (特にメインバンクにおいては)

信用リスクテイクのリエンジニアリング

RDB DynaMIC Vision 地域経済の動的把握

「RDB-DynaMICによる銀行データのフル活用」を通じて、リアルタイムで地域の経済動向を把握する

First Step ~『銀行』が活用~

✓ 銀行データから「お金の流れ」の集計が可能に！



◆ RDB-DynaMICで“自動的”に生成



A地域
B地域
C地域
D地域

★概要

- 県内のみならず、全国や海外など他経済圏への資金の流入流出の時系列集計
- 売上規模、業歴、業種、雇用規模などの多様なマトリクスによる商流の連関分析
- 口座の入出金や残高の変動等による個社単位での資金繰り動向の指数化と、それを多様なマトリクスで指標化

★銀行による、自行データを用いた経済動向の把握

- ① 企業と企業を結ぶ“お金の流れ”を、多様なセグメントによる分析や時系列比較が可能に
- ② 銀行の取引全先のPLや格付の更改情報の集約を通じて、“過去”の企業動向の検証フローを精緻化
- ③ “今”のお金の流れを把握することで、リアルタイムでの銀行全体の取引先の業況トレンド測定は勿論、“近い将来”のマクロ的な業績予測が可能に

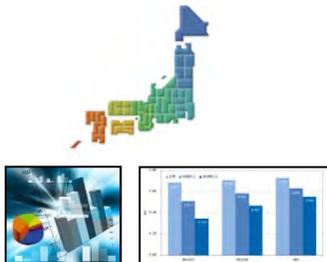
ミクロの積上げによるマクロ把握の実践

銀行による
地方自治体との
マクロデータ連携

Second Step ~『地方自治体』と活用~

- ✓ 県内のタイムリーな経済把握が可能に！
- ✓ 政策の効果を見える化～PDCAサイクルの実践

◆ 経済統計の“先行指標”



★概要

自治体はリアルタイムで企業と企業を結ぶ“お金の流れ”のデータを銀行から提供されることで、各種経済統計を“先行する指標”として、景況や中小企業の経済活動の変化をタイムリーに把握することが可能となる
更に地方版総合戦略の進捗、成否などが見え、必要な軌道修正についても素早く正確に実施することが可能となる

★動態データが有用

- ① “今”のお金の流れを把握することで、リアルタイムでの“県内の活性化度”の測定は勿論、“近い将来”の中小企業の業績予測が可能になる
- ② 中小企業の経済動向を“ミクロ×マクロ”による多様なマトリクスで浮かび上がらせることで、補助金や助成金を必要としている中小企業のゾーンが明確になり、中小企業の支援施策の策定から効果検証までのPDCAサイクルの高度化が実現される
- ③ 確かに1行のデータは完全ではない しかしながら、相応の結果が見えていることも事実